HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日本のカルト問題 ： 「摂理」を事例に
Author(s)	櫻井, 義秀
Relation	日本近代学会大会. 平成19年5月18日. 韓国
Issue Date	2007-05-18
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35238
Type	conference presentation
File Information	sakurai-20.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

日本のカルト問題―「摂理」を事例に―

櫻井義秀

１　「摂理」報道と大学

朝日新聞（2006 年 7 月 28 日より 3 週間）は、韓国のキリスト教福音宣教会（日本では「摂理」と呼ばれる）の教祖の行状と大学における勧誘活動を批判的に報道した。「韓国カルト日本で 2000 人」「教祖が性的暴行」という見出しの記事を全国版では社会面トップ、関西・西日本版では第一面にすえたのはよほどのことである。朝日が摂理をカルトと断定してさしつかえないと判断した理由は次の二点にあろう。

第一に、摂理の教祖、鄭明析（チョン・ミョンソク）は韓国警察から信者の強姦容疑等で国際手配を受け、1999 年から 7 年間も海外逃亡中である。日本・韓国における暴行の被害者は数百名を下らないといわれる。日本では被害者の支援者（渡辺博弁護士等）が、2006 年 8 月 10 日に 44 歳の女性最高幹部（韓国籍）が在留資格を不正に得たとして、入管難民法違反罪などで千葉県警に刑事告発した。被害女性による教祖・幹部信者に対する刑事告訴は検討されている段階である。

第二に、摂理は主に大学生を対象に宣教活動を行い、その際、宗教団体としての教義、組織活動、指導者等に関して布教対象者に全く情報を与えずに、様々なサークルを偽装して学生に近づくという布教方法の問題がある。摂理報道では、現在も日本の「五十大学に信者」をもち、「サークル装い勧誘」していると言われる（朝日新聞、2006 年 7 月 29 日付）。正体を偽る布教活動は、統一教会の伝道方法が元信者から告発され、最高裁において違法であったとの判決を得ているとおり、許されるものではない。

筆者は『中央公論』から宗教団体としての摂理を分かりやすく解説するという論説を依頼され、2006 年 10 月号に「摂理はキャンパスの中にいる カルトの被害をどう食い止めるか」を執筆した。その内容は、主に韓国の摂理批判団体である「EXODUS」、摂理本体のウェブサイト、韓国で数多く発刊されている似而非（さいび）宗教・異端宗教の概説書や卓明煥の研究書をもとに、摂理の教義や組織の特徴を説明したものである。この度の報告は、2006 年末に関東・関西においてそれぞれ自助グループを主催している世話人の方、及び元信者の方、計 5 名を対象に個人面接とグループ・インタビューをそれぞれ行い、そのデータを元に摂理の問題を考察するものである。

２　「摂理」の教義

[教団の概要]

「摂理」という言葉は、キリスト教において神の経綸（Providence）、予定された計画といった意味合いで用いられてきたものであり、特定教団の名称にするのは奇異である。実際、この団体は創設以来、愛天教会（1980）、韓国大学生宣教会（1982）、世界青年大学生 MS 連盟（1989）、国際クリスチャン連合（1996）、キリスト教福音宣教会（1999）と幾度も名称変更をしてきた。韓国では JMS(Jesus Morning Star)と一般に呼ばれている。

教祖の鄭明析は1945年、現在の大韓民国、忠清南道錦山郡珍山面月明洞（現在の摂理本部所在地）で生まれ、クリスチャンホームで育ち、聖潔教団（ホーリネス）教会の雑役をして暮らしていたとされる。1975-77年の間に統一教（統一教会）に関わった。そのために、摂理の教義は統一教会の教義とかなり似通ったものになっている。彼が愛天教会を始めたのは、統一教を離れてから3年後のことであった。

［三十講論の構成］

摂理は布教において団体の正体を秘匿しているだけではなく、教説それ自体も秘教化している。三十講論の論法には次のような特徴がある。

①聖書は比喩・象徴的な文言で書かれていることを指摘し、解釈的理解こそが真理に到達する方法であることを強調する。解釈に必ずしも一貫した方法論があるわけではなく、歴史的資料批判や文芸批評はともかく、キリスト教の既成教派の教説をふまえてもいない。

②1～5 までの入門編では、聖書の文言を様々に解釈する可能性を示しながら、聖書と人生、真理とをリンクさせ、世界・宇宙の構成についての見解も付加する。

③6～12までの初級編において、世界の矛盾や不幸、諸問題を解決するためにメシアを神が使わすという神の摂理があることを説く。

④13～20の中級編では、メシアの来臨の方法や妨害するサタン側の抵抗等が教えられる。

⑤21～30 までの高級編において、メシアの資格、特徴が細かく説明され、最終的にメシアが鄭明析に他ならないことを、聖書に記載される数字の神秘学的解釈から示す。

摂理及び統一教会の原罪の解釈は独特である。禁断の実を食べる行為は性行為であり、サタンはエバと、エバは次いでアダムと性関係を結び、罪を犯した下半身をはじて腰を覆ったと説く。これが原罪の根とされる。そのため、神はひとり子イエスをメシアとして遣わしたが、人間の不信により十字架で生涯を終え、霊的救いを約束して天に昇った。そこで再臨主が現れ、人類に完全な救いをもたらすという。

３　「摂理」は学生をいかに誘い、教え込むか

韓国、日本ともに学生への布教方法は似ており、サークルを偽装して対象者が慣れた頃に「バイブル・スタディ（三十講論の学習）」に移行する。「一人が一人を布教しよう」というのが鄭明析のスローガンであり、大学ごとに布教状況・実績を報告し合い、競わせる構造があるという。従って、摂理のメンバーは一年中布教に従事しているわけであるが、合格発表を一人で見にきた高校生への声かけに始まり、入学式が終わって各種サークルによる新入生勧誘の時期までに勧誘攻勢をかける。

摂理の教義を内面化する場面は、バイブル・スタディ、主日礼拝、教会の活動の三領域に分けられよう。伝統的な教会の日曜学校、聖書講座、或いは統一教会のビデオ・DVD学習（統一教会であることを秘匿した教養講座）や合宿セミナー（団体名と教祖を明かし、メンバーになることを決心させる）とも異なり、摂理の学習は師弟相伝の趣がある。

バイブル・スタディを始めた学習者は日曜の主日礼拝・水曜礼拝・早天祈祷会等に徐々

に出席を促されるようになる。礼拝の形式は聖歌、鄭明析の説教（かつてはファクス、現在はインターネットで毎日曜受信される)、代表者による連絡事項の伝達、昼食会、その後の運動等であり、祈祷の最後に「時代の主の御名によって、アーメン（鄭の名を隠す)」と称える以外はおよそプロテスタント教会の礼拝と変わりない。この主日礼拝出席をもってメンバーとみなされるようになるが、厳密なメンバーシップはない。礼拝や学習会への参加が増えると教会に入り浸り状態になるので、近くにメンバー同士が男女別でマンションを共同で借りて住むことが勧められる。

メンバーの平日のスケジュールは次のようなものである。

04:30	起床	05:30 のところもある
05:00	祈祷、教祖のビデオ視聴	近隣の信者も来る。朝の会合・打ち合わせ
06:00	解散、朝のサッカー等	2 時間近くの運動（鄭明析の好み）
	各自学校・仕事	学生は伝道時間を捻出
18:00	夕食の買い出し、準備	新人を夕食会に招いたりする
20:00	講義（バイブル・スタディ）	ベテランは付き添い、個別学習
23:00	解散後、会合、祈祷会	新人対策の会議（どこまで学習を進めるか)
24:00	条件の実践(祈祷･聖書講読)	霊の親と子、或いは親のみが伝道勝利のために
01:30	就寝	01:00 過ぎでなければ人の出入りがなくならない

摂理のメンバーの活動は、日常の布教活動（偽装サークル運営と併行）に収斂される。学生は卒業後、教会リーダーという責任者（多数はバイト生活で残りの時間を教会運営に当てる）に就くか、仕事と教会生活の両立ができずに摂理を辞めるものも出てくる。元信者が語る辞める原因は次のようなものである。

①教会生活は肉体・精神の酷使を前提としており、ついていけない人が少なくない。

②リーダー経験を積むと、役職者の不正やきれい事を取り繕う体制の綻びが見えてくる。

③インターネットや新聞・雑誌には摂理に批判的な報道が大半である。脱会者のサイトに現役のメンバーも反対活動の情報収集に集まる。そこで自分の活動を反省的に捉え直すものも出てくる。

④教祖は海外逃亡中であり、宣教成果は目に見えないままで、年中偽装サークル運営や教会生活の切り盛りに疲れてくる。30 代以降の人生が見えてこない。

⑤女性メンバーの中には、鄭明析の性的暴行を受け、宗教的意味を強要したり、教祖の恣意的行為を一切認めない教会の体制に失望したりするものが少なくない。

４　結論「摂理」の何が問題なのか？

大学構内や街中で布教活動を行うことは問題ではない。しかし、摂理の擬装サークルを用いた勧誘手法は、学生や一般市民の信教の自由（信じない自由含めて）を侵害する。学生においては、教祖による性的被害の他に、学業を疎かにするという問題が生じる。摂理は統一教会同様に社会問題化しているが、彼等の勧誘はやまず、問題解決の見通しは遠い。